

南仏治安情報（2011年5月）

■プロヴァンス地方

1. マルセイユ市内の暴力事件が増加傾向に

5月2日夜、マルセイユ市15区で空き巣に入った未成年者グループに対し、被害者の隣人男性が発砲し、15歳の少年が死亡する事件が起きました。マルセイユでは過去2年間で殺人事件が40件発生し、暴力事件の発生件数は過去1年間で一昨年より14%増加しました。市内の治安悪化に対し警察官の増員やパトロール強化などが強く求められています。

2. マルセイユ市内で貴金属を狙ったひったくり事件が多発

貴金属など装飾品を狙ったひったくり事件が後を絶たない中、5月にはひったくり犯が7人逮捕されました。被害者は高齢の女性に多く、歩道上で押し倒された後やバス停などで不意に暴力を振るわれた後、ネックレスなどを強奪されるケースが多くなっています。フランス国鉄サン・シャルル駅構内では、過去1ヶ月の間に女性職員4名が貴金属をひったくられる被害に遭っています。

3. 家庭内の薬品・危険物の取り扱いに改めて注意を

3月にマルセイユ Busserine の道場に手製の爆発物が投げ込まれる事件が起きたことをきっかけに、同様の爆発物の作り方がインターネット上に掲載され、未成年者の間で模倣して作られているようです。ペットボトルにアルミ箔と塩酸を混ぜて作る簡単なものですが破壊力は強く、材料も一般家庭で入手できることなどから警察は保護者に注意を呼びかけています。

4. マルセイユ市地下鉄の駅構内の大気汚染が深刻

当地方の大気汚染濃度観測を行う団体 Atmo Paca によると、マルセイユ市地下鉄の Saint-Charles 駅および Castellane 駅構内の汚染濃度は、最高で規定値の5倍に相当することが明らかになりました。パリ、レンヌ、トゥールーズ市などの調査でも同様の結果が出ており、地下鉄利用者だけでなく職員の健康のためにも、早急な改善策が求められています。

■コートダジュール地方・コルシカ島

1. ニース市内での犯罪統計

警察の発表によると2011年4月中には、ニース市内で発生したひったくりや暴力事件などの対人犯罪が1390件と前月1440件に比べ若干減少していることが明らかになりました。またこれで2011年1～4月の累計は5293件となり、前年同時期の6040件に比べ12%減少しています。

2. 高齢女性を狙ったひったくりの発生

5月に入りグラス市やニース市 Bon Voyage 地区、Les Moulins 地区、Pont Michel 地区などで、高齢の女性を狙ったひったくり事件が発生しました。犯人は2～3人組の若者で、女性が一人で歩いているところを尾行し、背後から羽交い絞めにして暴力を加え、ハンドバッグや金のネックレスなどの装飾品を盗んでいました。

3. 酔っ払った通り魔に注意

ニース市内では5月上旬に20歳の男性が酔った男に理由もなく椅子で殴られ重傷を負う事件や、4日深夜にイギリス海軍兵2名が路上で男に刃物で刺される事件、また22日深夜の旧市街で泥酔状態の3人組の男に若い夫婦が殴る蹴るなどの暴行を受ける事件が起きました。夜間の外出の際は、人気の少ないところを避け、泥酔者には近づかないようご注意ください。

4. コルシカ島内での爆破事件の発生

コルシカ島では5月に入り3件の爆破事件が発生しました。5月6日夜にはAjaccio市の商店に1.3kgの爆発物が設置される事件（爆破未遂）、12日にはフランス本土出身の夫婦が別荘で覆面武装した男達に拘束された後に完成直後の別荘を爆破される事件、25日夜にはBastia市でCorse-Matinの事務所が爆発物2個により爆破される事件が起きました。いずれも現在のところ犯行声明などは出されていません。

■ミディ・ピレネー地方

1. 携帯電話を対象とした窃盗事件の発生

トゥールーズ市内では2011年1～4月にかけて、携帯電話が盗まれる窃盗事件が1862件（1日平均16件）発生しました。手口としては、ひったくりにより携帯電話が窃取されるケースが目立っており、その際被害者が負傷する割合が高く496件（1日平均4件）に上っています。時間帯は夜間に多く、特に一人歩きの女性は頻繁に狙われ、時には死に至る暴力事件も起こっています。十分にご注意ください。

2. 金属部品の窃盗、大幅に増加

金属価格の高騰を受け、工事現場や電車の線路、電線や電話線などへの窃盗事件が相次いでいますが、5月中にもBéziersやMillau、トゥールーズでケーブルの窃盗事件が起きました。2009年から2010年にかけて、Sud-Ouest地方で166%、Gironde地方で600%の増加を見せており、最近ではブドウ畑などの散水用の配水管が頻繁に狙われ大きな被害を出しています。

3. 公衆電話への落書きや破壊行為、トゥールーズ市が最多

France Telecom Orangeの調べによると、トゥールーズ市内の公衆電話への落書きや破壊行為の件数は、フランス国内で最も多いことが明らかになりました。市内では週に一度、修理と清掃作業が行われていますが、破壊行為は後を絶ちません。携帯電話の普及により利用者も減少していることから、2010年には100台近くが撤去されたようです。

4. ツマアカスズメバチに注意を

Vespa velutina（通称Frelon asiatique、日本名はツマアカスズメバチ）という舶来種の蜂が、ミディ・ピレネー地方でも2004年頃から見られるようになりましたが、5月に入り活発化し巣を作り始めました。昨年トゥールーズ市内では直径80cmにもなる巣が発見されたため、今年も巣が小さいうちに駆除が行われています。獰猛な性格に加え集団で攻撃をするため、この種のスズメバチの巣を見つけたら5メートル以内に近づかないよう十分ご注意ください。

以上の治安情報は、当地地方紙等から得られた情報に基づくものです。